

70代のハローワーク

11/10
朝日

生活困窮「選べる仕事ない」

老後時代

エイジング・デザイン

①

る。昨年まで20年間バスの運転手として勤務したが、運転に不安を感じるようになり辞めた。だが、食事の回数減らすほど生活費はギリギリに。数カ月前から通うハローワークでの求人は倉庫での軽作業などが中心で、収入は大きく下がった。

「まさかこの年まで働かないといけないなんて。70歳を過ぎると選べる仕事なんてもないですよ」

厚生労働省によると2018年にハローワークで新たに登録した65歳以上の求職者は約54万人。その10年前(08年)の約23万人の2・3倍にあたり、年々増える傾向にある。

「65歳を超えて働きたい。8割の方がそう願っておられます」

安倍晋三首相は10月4日の臨時国会冒頭の所信表明演説

でこう述べた。ネットでは「働かなきゃ食えないんだよ!」「大半の人は『働きたい』じゃなくて、『働かざるを得ない』ですよ」という反応が出た。

内閣府によると、この8割という数字は14年度の「高齢者の日常生活に関する意識調査」をもとにした。ただし、これは仕事をしている人に分母を限定した数字で、回答者全体では約55%だ。

もう一つ数字がある。労働政策研究・研修機構の調査(15年発表)で「60代が働いた最も主要な理由」は「経済上の理由」が最も多く、約58%を占めた。

高齢でも生活のために働かざるをえない。そんな人たちの受け皿になっている業種の一つが警備員だ。この仕事を68歳から始めた柏耕一さん(73)に話を聞いた。

(鎌田悠、編集委員・浜田陽太郎)

2面に続く

高齢になっても働くのが当たり前。そんな時代の足音がひたひたと聞こえる。定年や年金受給がどんどん後ろにずれ、私たちの人生から「老後」という時間が消えていくのか。「老後レス時代」の生き方を考える。



73歳警備員

73歳になる柏耕一さんは警備員として週5日働く

秋の平日、東京・池袋のハローワーク(公共職業安定所)。若い男性や赤ちゃんを抱えた女性に交じって、1人の男性が目にとまった。紺のキャップを目深にかぶり、リュックサックを手に、ややおぼつかない足取りの白髪の男性。声をかけると、ぼつりぼつりと身の上話をしてくれた。

71歳。東京都板橋区の家賃月3万円のアパートに65歳の妻と2人暮らし。月7万円の年金と妻がレジ打ちのパートで稼ぐ数万円でやりくりす

